

大自然の中に人間と動物達がおりなす交響楽

「……トロメライをひいてごらんさい
きいてあげますから」

「なまいきだ! なまいきだ!」

なまいきだ..!!

カラー長編アニメーション

セルロイドの 弾き手

コロンブス

原作 宮沢賢治

●監修／宮沢清六・堀尾青史・天沢退二郎

監督 高畑 勲

●製作／村田耕一●原画 才田俊次●美術 棕尾篤●音楽 間宮芳生●録音 浦上靖夫

配給協力 映画センター全国連絡会議 協力 親子映画東京連絡会

文部省選定●優秀映画鑑賞会推薦

GO SHU, THE CELLIST

オープロダクション作品



セロ弾きのゴーシュ

●文部省選定 ●青少年映画審議会推選 ●優秀映画鑑賞会推薦
●日本映画ペンクラブ推薦 ●日本児童文学者協会推薦
●日本PTA全国協議会推薦 ●中央児童福祉審議会推薦



ゴーシュ



ネコ



かっこう



たぬきの子



ネズミの親子

かいせつ

●脚色と演出には、長編「太陽の王子ホルスの大冒険」「パンダコパンダ」や、「アルプスの少女ハイジ」をはじめとする名作アニメーションを監督した高畑勲があたり、原作の内容と味わいを損うことなく、本格的な日本名作まんが映画を実現しました。

キャラクターデザイン・レイアウト・作画は、「アルプスの少女ハイジ」「未来少年コナン」などの原画を担当し、実力には定評のある才田俊次。原作からイメージしたどこか素朴でユーモラスな味のあるキャラクターを実に楽しく躍動させました。また、楽器演奏の描写という難題に、セロの奏法まで学び、見事にこれを表現しました。

美術は、長編「銀河鉄道999」「母をたずねて三千里」などの美術監督をつとめ、斯界の第一人者と目される椋尾篤。やわらかで気品のある日本的画調に、光と影の微妙な遠近法を加えて独特の世界を創出し、今までなかった全く新しい境地をきりひらきました。

「インドの虎狩り」「愉快な馬車屋」などゴーシュが動物たちに弾いてみせる激しくまたユーモラスなセロの曲を作曲し、田園交響曲の編曲指揮にあたったのは、日本を代表する現代作曲家の一人宮内芳生で、アニメーションではすでに「ホルスの大冒険」で素晴らしい歌と音楽をのこしています。

あらすじ

映画がまだ、活動写真と呼ばれていた頃、あるいなが町のはずれに、ゴーシュという、青年が住んでいました。

ゴーシュは金星楽団の一員でセロ（チェロ）の演奏者です。近しい市民音楽会のために毎日、小学校の教室を借りて、楽団員たちは練習にはげんでいます。

「セロがおくれた」ゴーシュくん、こまるよ。

きびしい楽長さんの声です。一生けんめいやっているゴーシュですが、何故かうまく演奏できません。家に帰ってからも夜おそくまで練習しています。すると誰かが戸をたたきました。

あけて入って来たのは、二本足で歩くネコでした。

「トロメライをひいてごらんさない、聞いてあげますから」というなまいきなネコに、ゴーシュが「インドのとらがり」をひくと、ネコはそれものすごい音にびっくり大あばれ。あわててにげ帰って行きました。

次の晩も同じように戸をたたくような音がしました。

今度は天井の隙間から、かっこうが入って来て、言いました。

「ドレミファを覚えて下さい。」

ゴーシュは、かっこうの真剣な態度におされて「カッコウ、カッコウ」と同じ音を何度もひいてやりましたが、しまいにはどなっかっこうを追いついてしまいました。

別な晩、今度はかわいい子タヌキがやって来て、

「ゆかいな馬車屋」をひいてくれと楽譜を、見せました。

「ゴーシュさんはこの二番目の糸をひくときたいにおくれるねえ。」

そういう子タヌキの意見に、今度はゴーシュの方からたのんで、たいこの調子とあわせてもらいました。

四番目に来たのはネズミの親子です。

スタッフ	
企画	小松原 一男
制作	米川 功真
原作	宮沢 耕一
監督	高畑 賢治
キャラクター・原画	才田 俊次
美術	椋尾 篤
音楽	間宮 芳生
録音	浦上 靖夫
仕上	義山 利夫
撮影	阿部 正三
制作（配給）	宮内 清六
監修	堀尾 青史
インフォメーション	
プロデューサー	なみき たかし
声の出演	
ゴーシュ	佐々木 秀樹
ネコ	白石 冬美
かっこう	肝付 兼太
狸の子	高橋 章枝
野ねずみの母	高村 和子
ウィオラの娘	横沢 啓子
コンサートマスター	槐 柳二

〔上映連絡先〕